



SSH 通信



広島大学附属高等学校

SSH 通信作成委員

2024 年度 第 8 号

2025 年 3 月 6 日発行

皆さんこんにちは。2024 年度 SSH 通信作成委員です。この SSH 通信では、本校の SSH プログラムの 1 年間の活動をお伝えしていきます。

第 8 号では、2025 年 2 月 21 日（金）に本校で行われた SSH の日（課題研究成果発表会）について紹介します。SSH の日では、本校 2 年生による SSH 活動報告と AS（Advanced Science）コース、GS（General Science）コースの生徒や海外連携校（タイ：プリンセスチュラポーンサイエンスハイスクール ムクダハン校）、国内 3 校（広島県立西条農業高校、広島県立広島叡智学園高校、長崎県立大村高校）の生徒による合同ポスター発表が行われました。

今回は、Ⅱ年生のポスター発表を行なって得た学び、Ⅰ年生の発表を聞いて得た学びを紹介します。

【ポスター発表についてよくできたこと、改善が必要なこと】



（AS コース）

- ・先行研究を踏まえた仮説を説明し、理論立てて研究内容を伝えることが出来たと思う。とくに、「わかりやすい言葉」を意識して、専門用語をできるだけ少なく、また説明で補足することを意識して発表した。時間の関係から、実験結果の全てを発表することが出来ず、いくつか疑問が残ってしまう形になってしまった。
- ・ポスターの見やすさにはかなりこだわったので、難しい内容を視覚的に捉えやすくすることはできたと思う。また、中間発表の反省を活かし、聞き手を見るなど聞き手を意識

した発表になったと思う。一方で、英語発表にまだ慣れておらず、伝えようとするのが精一杯で、あまり伝わる発表になっていなかったと感じた。より伝えたいことをはっきりとさせ、聞き手とイメージを共有しながら少しずつ進めていけるように練習したい。質問対応に関しては、まだまだだと感じた。先生方に教えていただいたプロセスを踏めなかったため、今後はもっと練習したい。

・よく出来たことは大きく分けて 2 つあり、ポスターの見やすさと発表の分かりやすさです。地学は図や写真が無ければ伝わりにくいものも多いので、なるべく簡単な言葉を使い、画像を多く載せることで対応しました。発表では、聴衆の目を見てジェスチャーをしながら話すことを優先し、ポスターを見てポスターに話しかけないことを心がけました。ポスターの中で見て欲しい部分がある時はその時喋っていない人が代わりに示すようにしていました。改善が必要なことは集客方法です。タイトル内に一般の方が知らない用語が多く、また漢字の量からとつきにくさを与えてしまっているように思うので、ポスターではタイトルを変えてみるのも手段としてありかもしれないと考えています。

・PC を用いた図での説明が、初めて聞く方にとってはスピードが速く、少し置いていってしまうような感じがしたので落ち着いて反応を見ながらその場のペースに合わせて発表できるようにしたい。

（GS コース）

・評価できる点としては、声の大きさやポスターの見やすさ、導入の独自性など、発表をとにかくわかりやすく、面白く行えたこと。改善点としては用意された時間を超えてしまうことがあり、大切な質疑応答の時間が取れないことがあった点があげられる。

・研究の流れがわかりやすいポスターの制作、聞き手が聞きやすい声量やスピードで発表、質問に対して丁寧に回答することなどを行うことができました。一方改善することは、表だけではなくグラフをポスターにかくことでより視覚的にわかりやすくすること、指標の数式の説明がわかりにくかったことなどです。

・ポスターの文字はユニバーサルのもを使い、誰にでも読みやすいポスターを作った。また、相手の目を見て話すことが出来た。質問の時に全員が答えることが難しかったので全員が研究の細かい所まで理解できるようにしておきたい。

・中間発表までの内容をまとめた部分を発表する担当だったため、重要な所を厳選して時間内に収めることはよく出来たと思う。聞いてくださっている人に伝えるように発表することは意識できた部分もあったが、もっとポスター発表らしく対話を意識したものに改善していく必要があると思った。

・研究結果について深く理解してもらうために、別で資料やボードなどを作って補足することができた。原稿を読み上げるのではなく、聞いてくださっている人の方を見ながら自分の言葉で発表することができた。改善点としては、質問に対する返答に少し時間がかかってしまったこと、聞いている人にとってわかりやすい言葉・言い回しをあまり使えていなかったことが挙げられる。

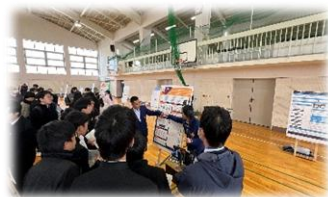
【SSH の日の全体を通して学んだこと、感じたこと】

（AS コース）

・質疑応答から得られることが大きかった。自分たちでは思い浮かばない疑問やアドバイスが得られたので良かった。他のグループの発表でも質疑応答が盛んに行われていたので良かったと思った。

・研究とは難しすぎるものではなく、日常に潜む問題の仮説と検証、考察を繰り返した結果であり、純粋に楽しいものであり、同時に尊いものであるということ。研究をさせてもらっているこの環境を当たり前と思わず、今後の研究を充実させていきたい。

・今年度は体育館に全てのポスターが集まる方式でしたが、やはり文字よりも資料が目をはき、ある程度余白を残しているポスターが目をはきました。実際には、ポスターに載せられなかった先行研究での知見や予備調査での苦労、調査での失敗やより精密な結果などが山ほどあり、全てが報われないことを残念に思っていました。いただいた評価プリントで研究から発表まで沢山の努力をしてきたことがよく伝わってくるという言葉をいただいて、切り取られた部分は無駄なものではなく洗練された研究とその発表に繋がっているのだと嬉しく思いました。



（GS コース）

・専門家の方々も多く来てくださっていて分析方法などについて詳しく聞くことが出来た。たくさんの人からアドバイスを貰い、より研究に対する意欲が深まった。教えてもらったことを踏まえて次の分析を進めたい。

・他の班の発表や、タイの高校生の発表を見て、話し方やポスターの質、タイトルの面白さによって人の集まり方が全然違うことに気づいた。この気づきを将来発表する機会に活かしていきたいと感じた。

・SSH の日のフィードバック用紙を見ると、やはり自分たちが当たり前だと思い込んでしまっていて説明不足だったことに気付かされました。また、他の班の発表を見ることで、字や色の使い方、シンプルなポスターが 1 番見やすいなど、自分たちの研究に活かせるものを学べました。タイの高校生たちの堂々としていて英語もペラペラな姿にもとても刺激を受けました。

【発表を聞いて：自分たちの課題研究のテーマ選びに参考になった点】（I 年生）

・自分たちが研究しようとしている問題が、社会にどのように貢献するかという点は明確にしないと研究の軸がぶれてしまうなと感じた。

・どのような研究が実現可能かという基準がつかめたので、参考になった。また、プログラミングやアンケートなどで実験を行っており、データ収集の方法も、自分がこれからやっていくうえで参考になった。

・自分たちが研究しようとしている分野、テーマの研究の見れたことが今後の研究にいかせそうだなと思った。テーマ選びにおいては、何を目的とするのか、どのような結論を導きたいのか、最終的にどのような方向性にするのかなどがとても重要であることを学べた。



【発表を聞いて：課題研究を進める上で、大切だと感じたこと】（I 年生）

・わからないことがあったということも実験の結果としてダメではないということに気付けた。そこから試行錯誤して解決策を見出せるような人間になることが大切だと感じた。

・発表の場において、質問などの予測できないことへの応用力が重要であると思いました。また、先行研究をしっかりと調べ、基盤を作ることも必須だとわかりました。

・予備調査が大切だと感じた。いきなり本調査をすると調査の問題点に気付きにくかったり、「このような場合は例外となる」というようなことに気付くのがあとになってしまう。また、先行研究の活かし方も重要だと思った。

・実験のデータが主観的なものになっていないか気を付けること。考察の際に自分たちの都合の良ように結論付けず、しっかり課題や問題点を洗い出すこと。



・新規性があり、かつ「わからなかった」で終わることのないテーマを選ぶことがとても重要なのだとわかった。相関を考えると、どちらが先か気を付けて考えなければならない。

・読んでわかりやすいポスターでも、いざ発表を聞くとやはりポスターには書ききれない内容があるので、いかにその部分をわかりやすく伝えるかが大切だと感じた。また、研究を進める上で値や定義を設定するとき、なぜそうしたのかという裏付けが重要だとわかった。